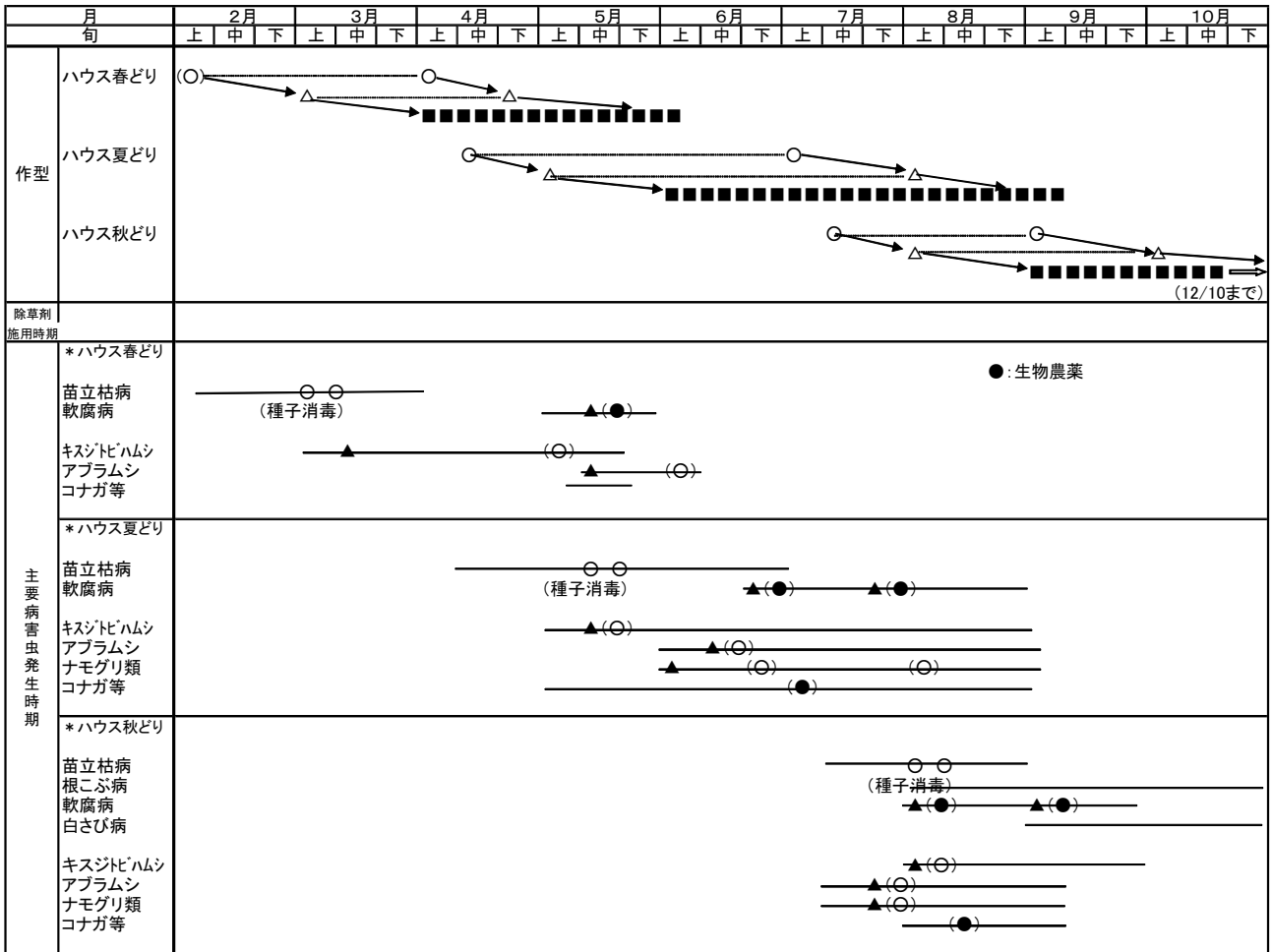


# 34 みずな

## A 栽培管理カレンダー



【凡例】 作型図 ○播種、△定植(移植)、■収穫、▲その他栽培管理法等  
 主要病害虫発生時期図: —発生時期、○基幹防除時期、(○)臨機防除時期、▲発生状況調 (○内数字は成分数)  
 ◎同時防除(同一薬剤で複数の病害虫を対象) (◆)条件付き防除  
 注)各作型の月旬は道央地帯を主としているので、道南、道東北地帯は前後する。

## B 主なクリーン農業技術の概要

### (1) 土づくり

- 基盤整備
  - ・排水対策の実施
- 有機物の施用
  - ・たい肥(4 t/10a) 施用を基本とした土づくり
- その他
  - ・ハウス栽培の亜酸化窒素ガス放出削減対策として、高温期の白マルチ使用、完熟たい肥を窒素施肥1週間以上前に施用、冬期間の被覆ビニール除去

### (2) 施肥管理

- 土壌診断による施肥の適正化
  - ・土壌診断を行い、その結果を活用した「施肥対応」等による適正施肥
- 有機物の肥料評価による施肥の適正化
  - ・有機物由来窒素の評価による施肥窒素削減

### (3) 雑草の防除

- 有色マルチの使用、通路の機械除草・手取り除草の実施
- 種草取りによる翌年の雑草発生量抑制

**(4) 病害虫の防除**

- 物理的防除
  - ・防虫ネットの利用による被害回避
- 耕種的防除
  - ・窒素の適量施肥
  - ・輪作による土壌病害の回避
  - ・排水改善、換気、かん水調整等でのハウス内の適正湿度の確保
  - ・発病葉の除去などの圃場衛生管理の徹底
  - ・土壌酸度の調整による根こぶ病の回避
- 生物的防除
  - ・生物農薬の利用（非病原性エルビニア・カロトボウラ、BT剤）の利用

**(5) 植物成長調整剤の使用**

使用しない。

**C 栽培に当たっての留意事項**

なし

**D 栽培に当たっての禁止事項**

なし

**E 肥料及び化学肥料の使用基準**

分類	慣行	使用基準			
	化学肥料施用量 (kg/10a)	総窒素施用量 (上限値、kg/10a)	たい肥等施用量 (下限値、t/10a)	化学肥料施用量 (上限値、kg/10a)	たい肥施用量 (上限値、t/10a)
ハウス	17.0	12.0	4.0	7.0	-

- 注1 たい肥 1 t 当たり 1.5 k g の窒素換算量とする。ここでのたい肥とは、「牛ふん麦稈たい肥」、  
「牛ふん敷料たい肥」を指す。栽培期間が短いことから、たい肥の窒素換算量を年間栽培回数で  
除して 1 作当たりの窒素換算量を算出する。
- 注2 ふん尿割合の高いたい肥を利用する場合には 1 t 当たりの窒素換算量を 2 k g とする。
- 注3 たい肥等施用量下限値は、たい肥に相当する有機物での対応も認めるものとする。
- 注4 たい肥施用量は輪作内での平均値も認める。

**F 化学合成農薬の使用基準**

(単位：成分使用回数)

作型	慣行						使用基準												
	殺菌剤		殺虫剤	殺虫・ 殺菌剤	除草剤	植調剤	計	殺菌剤		殺虫剤		除草剤		植調剤		計			
	(種子 消毒)							基幹 (種子消毒)	臨機	基幹	臨機	基幹	臨機	基幹	臨機	基幹	臨機	合計	
ハウス春どり	4	(1)	6	0	0	0	10	2	(1)	0	0	2	0	0	0	0	2	2	4
ハウス夏どり	4	(1)	6	0	0	0	10	2	(1)	0	0	4	0	0	0	0	2	4	6
ハウス秋どり	4	(1)	6	0	0	0	10	2	(1)	0	0	3	0	0	0	0	2	3	5

- 注1 使用基準は剤別（殺菌剤・殺虫剤・除草剤・植物成長調整剤）及び基幹・臨機防除別に記載  
基幹防除：平均的な病害虫の発生状態を考慮した場合、ほぼ毎年行う必要がある防除  
臨機防除：突発的な病害虫の発生や、地域や品種により発生状態が異なる病害虫に対して  
行う防除
- 注2 種子消毒は殺菌剤の内数とする。
- 注3 生産集団の栽培基準における化学合成農薬の使用回数は、使用基準の合計回数を下回るものとする。
- 注4 使用基準における化学合成農薬の剤別の使用回数は、地域の栽培実態に合わせ変動して差し支えない。
- 注5 防虫ネットを張ったハウス栽培を前提とする。

**【参考：作型（地域別）】**

作型	道央地域						道南地域						道東・道北地域					
	は種期		定植期		収穫期		は種期		定植期		収穫期		は種期		定植期		収穫期	
	始	終	始	終	始	終	始	終	始	終	始	終	始	終	始	終	始	終
ハウス春どり	1/25	4/5	3/1	4/25	4/1	5/25	1/25	4/5	3/1	4/25	4/1	5/25	1/25	4/5	3/1	4/25	4/1	5/25
ハウス夏どり	4/10	7/1	5/5	7/25	6/1	9/5	4/10	7/1	5/5	7/25	6/1	9/5	4/10	7/1	5/5	7/25	6/1	9/5
ハウス秋どり	7/10	9/10	8/5	10/10	9/1	12/10	7/10	9/15	8/5	10/15	9/1	12/20	7/10	9/10	8/5	10/10	9/1	12/10

注1 道央地域：石狩、後志、空知、胆振、日高管内とする。

道南地域：渡島、檜山管内とする。

道東・道北地域：上川、留萌、十勝、網走、釧路、根室管内とする。

注2 作型は地域別の平均的な作期を示したものであり、地域の栽培実態により当該期間が前後する場合があります。

**G 注釈**

●土壌診断による施肥の適正化

窒素の分析は義務化しないが、的確な施肥を行うため実施に努める。

●防虫ネットの利用による食葉性害虫の被害回避

防虫ネットの目合いと侵入防止できる害虫の関係（事例）

目合い (mm)	害虫の種類
4.0	タバコガ類、ヨトウムシ類、モンシロチョウ
1.0	コナガ、アブラムシ類、ナモグリバエ
0.9	スリップス類、オンシツコナジラミ
0.8	キスジノミハムシ
0.6	その他微小害虫

●土壌酸度の調整による根こぶ病回避

根こぶ病は土壌pH4.6～6.5で多発するので、6.5以上になるよう石灰資材等で調整すると軽減される。